

帰る場所が一つでもあれば、くじけないでいられる――

シンガー・ソングライターとして、自身の感じたことを歌にして伝える島田出身のリージャさん。県内のテレビCMソングを手掛ける一方で、市内で行われた「はたちの集い」や母校でのイベントにも参加しています。

【16歳から始めた曲作り】  
幼い頃から音楽が大好きだったというリージャさん。曲作りを始めたきっかけを、改めて振り返ります。

「小さい頃から音楽が大好きで、中学では合唱部に所属していました。昔から詩を書いていたこともあり、13歳頃から歌詞や曲を作り始めました。しっかり曲作りを始めたのは、高校生の頃です。当時、働きながら定時制の学校に通っていました。そこで、DJをしている人と出会い、洋楽のInstrumental(歌

詞のない曲)の音源をいくつか提供してもらい

ました。この頃から『歌うなら自分の歌を』という思いがあったので、もらった音源にオリジナルのメロディと歌詞を乗せる手法で、本格的に楽曲制作やレコーディングを始めました」

期もありましたね。そんな時、ヒップホップやR&Bの聖地であるニューヨークで好きな音楽に触れ、東京で音楽を続けることを決意しました。その後も活動を続ける中で、皆さんに知ってもらおうきつかけ



シンガー・ソングライター  
リージャ  
Lydia さん(東京都)

【歌で伝える思い】

夢を実現するまでには、悩んだ時期もあったと話すりージャさん。

「高校時代から、静岡のクラブなどで歌い始めましたが、自分の音楽について悩んだ時

【ハグするような音楽】  
シンガー・ソングライターとして、今後の目標や、歌に込める思いを伺いました。

「私にとって歌とは、思いや言葉にできない感情を放出することです。例えば『FAMILY』という曲には『帰る場所が一つでもあれば、くじけないでいられる』という思いが詰まっています。寂しさを感じていたり、愛情不足で孤独を感じていたりすると、音楽でハグするような活動もやってみたいです。ありのままを否定されたり、悩んでいたりする人に、そのままのいいよと伝えたい。そんなイベントができたら良いし、気持ちを込めた音楽を、私なりのペースで作りたいです。人への愛を伝えるのが、曲を通して愛を伝えたいですね。人のそばに寄り添えるような曲を、届けていきたいです」

自身が作詞・作曲する歌のメロディに乗せて、思いを伝えるリージャさん。その温かい歌声は、これからも多くの人を癒やしていきます。



島二中で歌をプレゼントするリージャさん(右)

Shimadajin File #137

Story 島田

